

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら姫路車崎教室		
○保護者評価実施期間	R7年12月15日		～ R7年 1月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	R7年12月15日		～ R8年 1月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・5領域に基づいた集団プログラムを実施し児童の発達段階や特性に応じた支援を行っている	・月の目標を定め、教室全体で取り組んでいる。 ・プログラム内容が偏らないように日々の活動を検討し、発達のバランスを意識した内容を取り入れている	・プログラムの目的やねらいを職員間で共有し、より効果的な集団支援につなげていく。
2	・児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別プログラムを考えて支援を行っている。	・手先に課題のあるお子様は洗濯ばさみ等を用いて巧緻性を高め、言語に課題のあるお子様は絵カード等を用いて発語練習を行っております。個別支援計画に基づき日々の支援内容を職員間で共有しながら対応している。	・他の事業所等と情報を共有し、個別プログラムで使用する教材を増やしていく。 ・他の教室とも連携を図り、専門職からのアドバイスや助言をもらうことで専門的にアプローチしていく。 ・支援内容の振り返りや共有方法を見直し、より一貫性のある支援につなげていく。
3	・構造化を用いて教室を運営により、児童が見通しを持って安心して活動できる環境を整えている。 わかりやすく導線を確認し、スケジュール等は全て可視化して提示している。	・靴や荷物をしまう場所、座る椅子には全て名前を平仮名で記し、一人ひとり違うマークをつけて可視化している。 ・活動の流れや内容を視覚的に提示し、時間も併せて提示することで見通しを持てるようにしている。	・児童の理解度や反応を踏まえ構造化の方法やプログラム内容の見直しを行い、より分かりやすい支援を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・年齢別で活動に差がある	・年齢差のある子どもたちが同じ遊びをすることが難しいと感じる時があるため、時間や空間を区切って活動を分ける必要がある。体力差、体型差もあるため、双方が怪我等をしないよう工夫が必要。	・活動スペースをわけたり、プログラムの内容を子どもに合わせて変えることで双方に負担のない活動ができるようにしていく。
2	・保護者会の開催、保護者が参加できる研修会の機会を提供できていない。	・保護者会のニーズにばらつきがあり、実施に至っていない。事例を用いた勉強会や保護者同士の意見交換の場は設けたいと感じている。	・活動の見学や保護者様を招待するイベント等を検討したい。
3	・保護者から得た情報を職員間での共有が十分ではない場合があった。	・口頭での説明が中心となり情報が断片的になってしまうことがあった。 ・話し合いや振り返りの時間が十分に確保できない場合があった。	・情報共有のルールを明確にし記録やミーティングを通じて全職員が同じ情報で把握できる体制を整えていき共通理解を深めていく。